



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第12巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	『鈴木栄太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
Issue Date	1961-09-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77619
Type	manuscript
File Information	I015_0112.pdf



12

久美堂特製
¥20



NOTE BOOK

Made of paper
Specially prepared in Japan

國民社會研究
第十一卷

昭和三十六年十一月五日

A-NO.3

MUSASHI

12

物として取り扱ふ教として養ふ事

事があふるれば一番便用である。

但し格別な心配を要したり他校と異なるが
社会福祉を考慮し
す。このは短所を述べた。同一の

命令に標榜の存に候ふる。おとし。

国民の福利を機械の操に動かす。

はあ、素と文法的交流を盛んに

生活の地方差をなくする。おとし。

である。第一生活の地方差をなくして

階級差をなくする。おとし。

である。統治者が自己満足地位を

くする。おとし。階級差は厳格に

おとし。地方差をなくせんとして階級
差は厳格とする方針の中に在るのか。都府同

統一と云ふ標榜するも異質的には物質

の統制平定と云ふ標榜するも同連

してゐる場合がある。おとし。定規に

は安定平定して均衡のとれた

状態が目撃された。おとし。

直接に不足又は欠乏は苦痛にお

ひ。塩のたの山村では塩を切望し

す。海岸に有り余つて送つてた

ところでは塩は邪魔である。おとし。

からかきおせ。生活はすぐ通ふ。おとし。

ある。中に入つた商人はどちらの側にも

神経がある。おとし。すへ。商業生活は

の権威の上下流が現象と見られる。

立派な条件が甲地と乙地が田舎から
 交易の必要が生じ、相互の
 必要の必要が生じ、文化の音一

かくの如きもの。相半の強しからものを造る
 次に統治活動においては、税金と
 税は必要。

統治者が自己を守るためにも税
 が必要である。自己を国民を守る。

ために取れる大きな税金を必要とする。

税金の金を得るために防衛

の金を得るために国民教育は必要

税、自己を守るために税金を必要とする。

統治者以外の国民の統治の場

まで広まれば、自己の力の増

大を常に希望している。力の増

人口の増やロエのなすも同じであるが
もつと多くロ民の知力の発達と同
じである。その為には教育を高めな
ければならぬ。その為には民衆を
高めなければならぬ。それは産業の
発展を指導し援助し協力してや
らなければならない。そんな活動がロ民の
文化の近代化に必要である。
地球上の国々がある限り、それは
対立し競争し弱肉強食をいついけ
ている。為政者は油断もすさもなく
常にロカの実況に心を配らなければ

地方都市である。

保護や便宜や協力を統治機關より要するものが多いが、これは機關はほん下統治機關の附近にあるものが多い。日本の官庁はそれが多い。好ましくない。

ナチス党

⑧ 江島のフォートハーバー建設

高橋

大戦の時に大財閥、名門等からの子弟の
 戦死者と一般国民の各家庭におけ
 一般家庭一戸当り何人
 大財閥の家庭一戸当り何人
 皇族一戸当り何人
 官家一戸当り何人
 一般民衆一戸当り何人

政治の末端の事例 ⑨

江の島に今オリエンタルの島のフォートハーバー
 築造の工事が進んでいる。突堤と埋立
 地一万坪ばかりが進んでいて、今では觀
 光事業大企業（多分東急）と政府が
 進めている。地元の者は大反対である。
 一万坪の埋立地は大企業に過ぎず
 観光ホテル、遊樂場、温泉等が大概
 構想に作られるより老朽である。
 今では工場の進捗や計画を地元の
 人達に周知せしめ、意見を聞く必要
 く対立のまゝに進めよう。せめて地元の意見を
 最初大企業で江の島の大投資する。

その意見を聞く
 必要

話しかけたら、島の人達は在米学
者を脅威するものと反対し、所かつの陳
沢市議席に呼んだ。その時は今の時
で有った。名陳地指屋をたへ
に指屋地をギブツツけ、恐れがあまりし
て反対した。然し最近になつて指屋地の
わくからはつされしなつた。地元の
衆議の如何にかわらず、指屋委員等
てより決断すれば合法的にいつでも解
除されるもの格である。最初陳は
陳沢市議席に島民の希望と同調
的であつたが、新屋からの圧力で

とラレもなくなつてゐる。

口外、秘書、市会を通じて一本に

なつてゐる。上下に貫いてゐる。政界の

中への方角がそれを決定してゐる。政

党の中へは大企業体と結びつた。恐

らく大企業体の大きな組合の為に

大企業体の者は道々に動くのであ

らう。

大企業体が有知な政治家の場合に

目をつけたら、組合によつて大政變を

動かしてその方向に向わしめようとは容易

である。地元の人達の反感がある。

※政治家が欲するものは選挙の
金の金と意見は選挙の時の
票である。

この票の利用はよつて、今の政治家は
動かす原動力である。結果としてその票は
統制こそ一つ、の敵を動かすものなり。

少くとも藤沢市会、イン選挙に結着し
て投票するによつて藤沢市政には影響

し、わつたに、この島に民は團結して

選挙の金を動かす必要である。それ

が、本来は、位なり。その反対は、形骸何の

役なり。ぬれぬれである。

10

いよ

は当然に心得ていて、権力によつて思

お構ひ、金に、おめく、おめく、おめく、

江の島の島民こそ、今に喰いおけに、

なり、おれは、おれである。おれは、おれに、

し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、

か、政治、し、し、し、し、し、し、し、

今日、日本の各地に、これと同じ、

か、一、者、に、お、こ、こ、こ、こ、こ、

と、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

で、大、政、党、と、大、財、團、と、

に、株、の、大、改、革、大、建、設、を、

十、月、十、日

三権の首脳

□ 衆議院の首脳 (統治の首脳)
□ 司法横田最吉 (司法の首脳)
□ 衆議院議長 (以下各相など約三十人)
□ 官中政り殿に召されて御覧下さい
九子か三四日分の我回にある。年
末慰多かみおり殿様成親のため
は忘れろ。□ 衆の最高主権を
はこれ半の三権を支配する。
又、□ 民元令全部を支配
す。元綱を支配しなすに
法おまは元綱か三つの本元綱
に収められてい。よりを明か

19

にしている。この三つの元網が各々集
つかの大網に分れ、各々から中網
が分れ、中網が小網に分れ
こいよ。お網の先には集まるこいよ。細紐の先に世帯を
かむがつけられていよ。

三十は

中国都市演進の系統

中国都市は経済的機関の集合に

よつて出来てゐる。上級都市よりのもつち

人々も、~~集~~集を~~集~~集としてつたもの

同が()内の下級都市に配分す

る。よかその機能である。又下級都市

より集まるとするものの上級都市に

造りあつてゐる機能といふこと

然しこれは商業都市の機能のみ

ならず、工業都市の機能の都

市はそれと少し異つてゐる。工業都

市の機能の中、中国都市では下級要

素をより受け入れ、材料に加工

して工業製品を作し、その製するを
又下級集落に送り出すのである。
その場合は中回都市であるが、
首都における旅客加工的操作
を行ふ。

就中に見る中回都市は大部分
商業都市の性格をもち一部に
工場都市の性格を併用する。
最近に於て交通通信の発達を
望むに伴ひ、商業都市の生活動は
其機能を上級都市と下級都市
に奪はれ、中回都市は没落の

運命を叩いていよう。

又中回都市にある工場都市の活動は材料を供給圏も製造販賣圏も共に拡大し材料を求めの範囲も世界的となり製品を販賣する圏も世界的にならんとす。傾向を示している。それと共に近郊都市の大工場の下請工場化の傾向が見られよう。

かく中回都市は最近これほどより多く工場都市化すると共により多く下請工場都市化の傾

※かくのやうな設備をもつてゐる事は集
中資本が最も効果的に口民労働
力を利用する事になるし、又口民
が金に余すところなく生業を占
めるのも便である。

のを示してゐる。

金に各都市は首都ルが下流工場

の下流工場又はその下流工場又

は更にその下流工場になる傾向

に近づくのと見られる。中回都市

は中回高き都市から中回下流

工場都市に進むものと見られる。井

首都は各都市の工場の前工場の家業を

いふと云ふ事となる。

商業都市の発展は漸次下級田舎

町にうつり、商業都市のあけは高き

活動はその都市居住者に対するもの

16 のみ

×けれど、各機サ、ヒル業は益し
陰益す。老のと思はれ、が交通の
便にしたかつて中子都府の係へは
之取階が一取階ルカ。と云ふ所
に減しては行くが累位粗糲はた
なよてあろ。

17
となつて行く側向に進んであろ。×
口民は皆新らしい口民服を身につけ
て来よてあろ。その口民服は残
りの口民服はたなく、生活と仕事
のみの口民服である。

お尋ね政の例

金口社福祉協議会。この下に府県の協議会があり、その下に市町村の協議会がある。そこには各県の分配がある。東京など恐らく区が東端機関がいろいろ。

この種の団体の名は都道府県の以下以下のものが多い。

中心に政治の力を連結してない団体は労働団体、同業団体、学術団体、社交娯楽、その他、数で他の大衆の団体には政治の力がひそんでいす。

る例。

保安調査会の東端活動の大半は

行政は上から下へ
自然は下から造られる
けれどもその自然も皆ては行政
としおさうものの上に成る
た然る様で

□ 民生の発展（民生の主要問題）

二、□ 民生の構造

生活と生活の組織

□ 民生の構造（民生の発展）

□ 民生の構造（民生の発展）

一、民生の構造（民生の発展）

一、民生の構造（民生の発展）

都市と地方

都市構造における都市と地方

交通路網（交通路網）

一、交通路網（交通路網）

一、交通路網（交通路網）

一、交通路網（交通路網）

一、交通路網（交通路網）

一、交通路網（交通路網）

果核のものは皆それその政治的組織を成してゐる。それはそこで自然発生的組織ではなくに中央よりわきから起つて造られるものである。つくれば、自然発生的なものに落ちつた自然発生的ものの性格を成して行く。この中央の政治中へ部が金口には活動する。それはそれらの果核が政治的組織を成してゐる。それが口から行政組織である。この行政組織の下部に政治的活動の末梢は組み立てられてゐる。國体やホムによつて。

21

一、末梢にかけ組織の組織と活動
 一、最上部は政治の中心に行政組織と活動
 政治は上部のとの回を下部の回を
 政治と末梢
 最上部の組織と活動
 口から果核の組織と活動
 生活力の機能として、
 果核の聯合体としての
 口から政治の組織と活動
 組織である。一、それは上部より
 下への組織で、上部の活動は
 果核としての下級果核である。

果核にかけ組織と活動
 政治の活動

(一月二十一日)

日本人の特色

1. 神に對する畏れ及び敬愛

神仏その他にシテクニチスハ

2. 祖先に對する孝之方 和親中口

3. 親に對する孝之方 今ト

4. 死人に對する孝之方 慣習

5. 親族に對する孝之方 制度

6. 家族に對する孝之方 制度

7. 村人及び他國人に對する孝之方

8. 統治者に對する孝之方 制度

9. 學教する人に對する孝之方

10. 國家社會に對する孝之方

220 日本人の特色
と制度

日本の知能テスト平均

日本の学力

日本の学力

知能テスト平均

学力

日本の統治組織

口氏が現在おける。評価体系

口氏が現在行っている。評価評価の
体系のその本。その本。

一。八百屋の店長。下。何。と。主婦。の。結果。

一。真。難。か。い。購入。の場合。の。判断。

一。主人。か。要。同。改。造。の場合。の。判断。

一。少年。か。仲間。と。遊ぶ。場合。の。判断。

一。少女。か。少年。を。思。慕。す。場合。の。判断。

それ。以外。は。評価。の。評価。の。基準。と。差異。

分量。味。衛生。價格。保存。方。美觀。

價格。衛生。美觀。家。相。習慣。

暴力。信用。成績。教。元。親。兄弟。先生。

美觀。健康。智能。家族。身分。富。

○日本文化におけるシンクレチスミ

神佛の融合を基軸として日本

文化は悉くシンクレチスミ的傾向

が認められようではないか

それ等のシンクレチスミ的現象を

かえりばねることは

歴史をいさへるものには合致し

ては来らず、吾々の研究も

右翼の戒めと各所の誤謬を

名の誤り、歴代と、末端にかけ

るもの、佐々木氏、先知がゆきま

。それだとしても及ばぬ所は大

砲か出

國民の非合規性

おとろは自然神の世界での
法則。人同法下は67又は67であらうか
常である。

日本人は皆國米を食った人である。
法律は神が作ったものでなく、人か
作られたものであるから完全に合規的
であるとは限らぬ。非合法も取つて
可くはない。取つて可くするもある。
神が作った法律に及ぶときのみ
取つて可くである。神が作った法律
は明白である。

口示の要する機能

（その起るもの）

モンテスキューの「法の精神」の第一巻

（第九篇より十三篇までの五巻）の表

IXは「防衛力との関係にある」とい

X「攻撃力との関係にある」とい

XI「政治的権限（立法権）との関係

にある」とい（二〇章）

XII「市民との関係にある」とい

（三〇章）

XIII「輿論徴収および口示徴入

の大きな自由に関し（三〇章）

26 ニ九二 は「口示徴入機能も自由

の税多と結いなる病にてもとの
である。その要するした機能は

所衛力（対内対外）

（を必要とする）

統治体制（内政外交）

市民の自由の環境の為に経済（経済）

収入（税）は所衛力の法に依るものであつて
これは税（税）易（税）（一九二〇）

の「国家ないし君のヒキの力は自

衛の能力である」といふ（根本的）

展である。この根本主義は明かに

のさである。

※この君主制は君主と貴族よりなるものである。

⑧この共和制は貴族と協約して治めものである。

モンテスキューは建制的・法的・実質の区分の上に立脚する。

君主制の所が本質上自由な政体である。独裁は例外。構造上自由な政体であるとの点である。

政治的自衛とは人が欲する善の二つを行ふことが出来る人が欲する善の二つを行ふことが出来る。法の精神(オキス)第三部(アリス)

モンテスキューでは政体は三つあり、それぞれ

作用が異なる。

君主制(貴族) 共和制(平民) 独裁(専制)

君主政体 共和政体 独裁政体

共和政体 君主政体 独裁政体

モンテスキューの政体論では平民は若

えこれと、それは若然と法をいふ者として

決定され治める側にかけ、政治構造

として政体が変わる。末端

とか、神統法と法の階層とが頭から

同じでなかった。治め者の技術とか

同じである。平民は水で水の中に

泳ぐ技術が回りで水との接点になると
回りが変わった。恐らくクルーズが水と
水で平民の存在の主張だと金持だ
ったのはないのだろうか。今でこそ東
の統治とかは統治現象を人々との
間の現象と考えるが十八世紀には
では平民は水か土か後の存在に思
政治する人々が人として考えられ
の技術の一つとして政治や技術が
考えられていたのはないだろうか。

アメリカの都市とは日本の都市
アメリカの都市はアメリカの都市に
学友が知らず果實の人は集中し
皆都市の主張する人の集まりであ
りから、又そこに整序の秩序かな
一人一党とその所に整序して
いふ事が充分に考えられる。それ
は、日本の都市は整序の秩序
が非常に存在し、人口集中の秩序
にその集められる、為人は皆
それその秩序のゆかりにあり
て接する。おいてそれ混乱する
は、三つ。三つは一人一党はな

や位仰

古くからある生花や書道や芸道
や金堂にこの木があり人ばかり
それや整齊の内に活動して来た。
その木が根こそぎになつてしまつて
ろもあるが、少しづつ時勢も変化した
から変遷してゐる。

昔はそれが金匱の様に整然として上
下の系統の内にあつたといふ。

西の地方の貴族も京都の町奉行
を申へといふ地方的分派の地位を
もち親戚の組織もあつた。その金匱的
な親戚関係の組織よりはなれてゐる。

のか、かくも重視してある。そんなやう
の、原則的存在は、どこにもあつてあつた
か、大筋は金口的に整備してある。
お茶、つもお花でも、武芸でも、又
修練を要する、生業でも、皆整へ
した様をもつていた。日本の都市
にはそんな村が、数處散らばつてゐた。
それが明治以降、漸次弱体化して、
たゞ一時に急変するはなかつた。おれ
はこの戦時のもつたものである。お花も
画も、随分前と、変つたものがあつたが
それと、一つの村を造つて、その内を成

お出しなされた。こゝでは一人一箇の
対象は一つ。

アメリカの各都市の自治體の人数
集まりそれらの自治體を許され
てゐる自治體とは異つてゐる。だが
そこそ私は都市社會を表現
の最佳の法に都市は思ふた
り規則的に動いてゐると見た
のである。それは日本の都市の
現狀である。

の交流路線は最上級の設備であるが
才二次才三次の統治様国にも交流
路線は二流三流のものである。
交通通化の様国の口内の配置は
大体にこの統治の路線に従ってその
規模の大小を現はしている。
マヌーの組織を
大体そうである。
口民衆の構造図式の才は地
図の上に示された。この統治様国の
大やのものの配置とその間の交流
路線によって示されたものである。

口民衆の保安様国の配置と

その國上の交通路線の國は第一の
口民元小構造國をなすものである
かそれは統治構造國と大
体一致といふものと考へる。
教育、信仰、娛樂の機關も大體に
は統治の機關の力の配列に準じ
て位置してゐると云ふ。

殊に左二つの機關、商業と工業と
都市と農村とを
の機關も市同様に統治機關の
力の配列に平行して存するといふ
へない。それは否か、特に工業は村
落の土地條件に支配されるものとい

為、経済の路線と全く異なる特有
の配分をなす事があり得る。旧時代の
交通路線の分岐と大に生じた交通
網がそのまゝに存続してゐる場
合である。

然し日本国民経済における社会的
構図の大々の配分は大体に統
治構図の在地的配分によるとい
うと云ふ事が出来る。

国民の生活活動は主として
右に述べた統制下に現はれてい
るものであつて、その配分は

そのあ、は口民生活構想図式
と考へるゝかある。

(二月十四日夜)